

意欲的なトラクタ集材への取組み

付知営林署付知製品事業所 上野 忠光
銅島 悟

1. はじめに

トラクタ導入から3年目、安全作業に徹することはもちろん、いかに総合コストの低減を図るかに向けて現場一丸となって取組み、今年度は間伐、択伐箇所での実行も含め現在、冬山2セットで実行中であるのでその取組みについて報告する。

2. 内 容

- (1) 現地の地質、地形等、立地条件に適応し簡易集材とトラクタ集材を組み合わせるなど極力トラクタ集材の拡大を図っている。
- (2) 従来、トラクタ集材対象地としては冬山で比較的地形も緩やかな人工林皆伐箇所があげられてきたが今年度は天然林、人工林を問わず林道に沿った伐区においても実行してきた。
- (3) トラクタの機動力を活かし全幹材山元巻立を実行し生産地点の追い上げを図り、新鮮材供給に努めた。
- (4) 更新上への配慮からトラクタ道は幹線道のみとしその延長も極力、短距離としウインチロープを使用して距離をのばした。

3. 実行地概要及びまとめ

- (1) 夏山での取組み概要（表-1参照）

ア 118林班、はしごとウインチロープを利用して伐倒方向を林道側へ規制し集材距離の短縮を図った。

イ 61林班、残立木をいためないよう、台付ベルトを使用した。また滑車はウインチロープが簡単に取付け、取はずしできるようF型滑車を利用した。

- (2) 冬山での取組み概要及びまとめ（表-2参照）

4. おわりに

我が署においても従来の集材機一辺倒の作業から脱皮することができた。今後も意欲的にトラクタ集材の拡大に向けて努力していきたいと考えている。

表-1 冬山での取組み概要

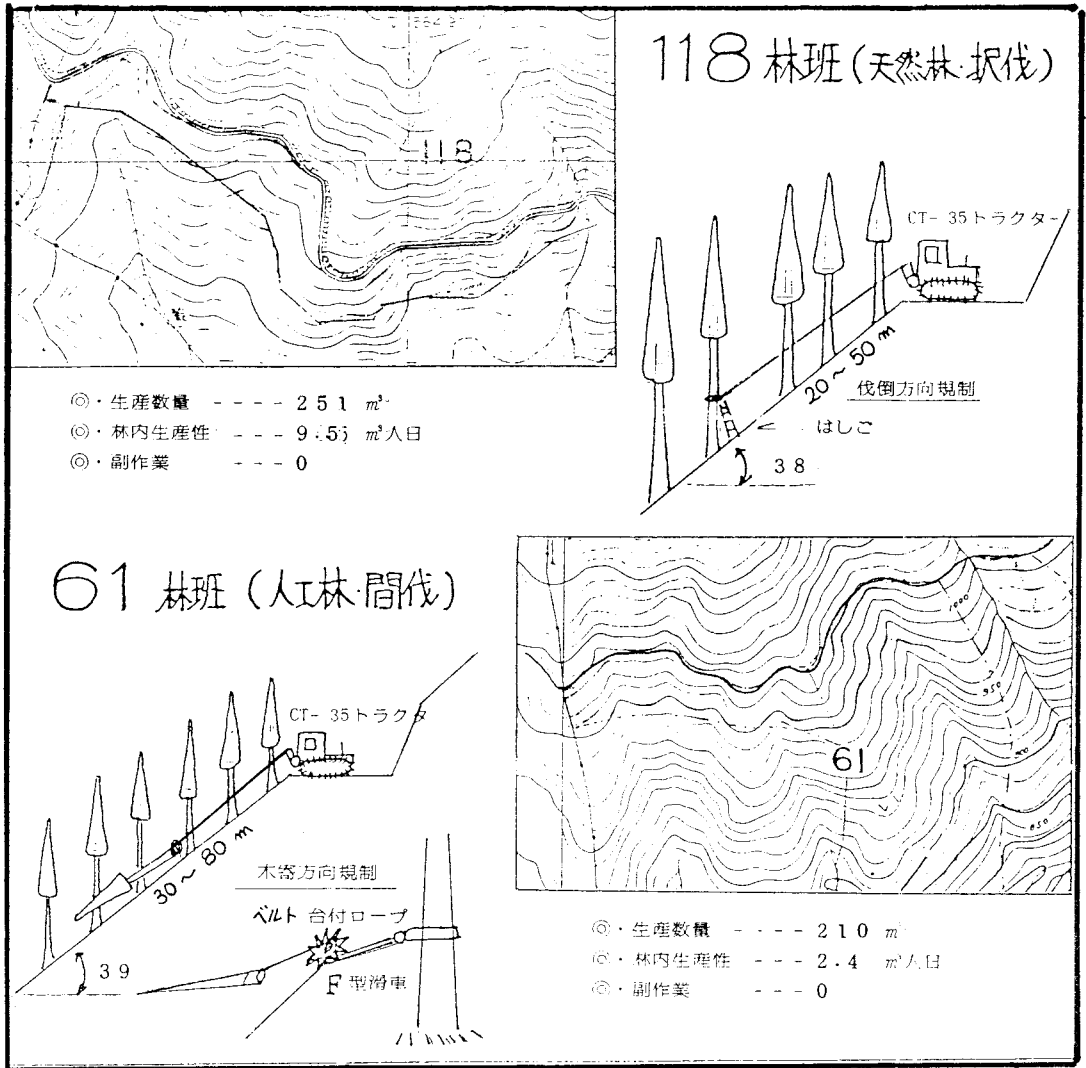
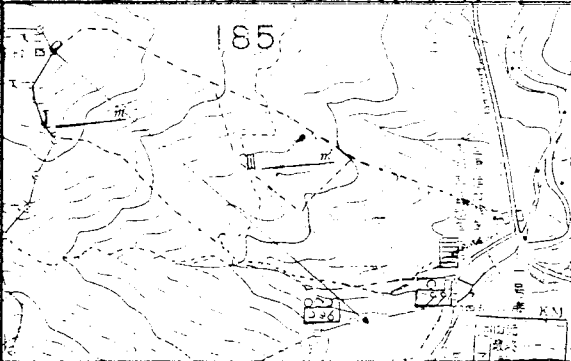
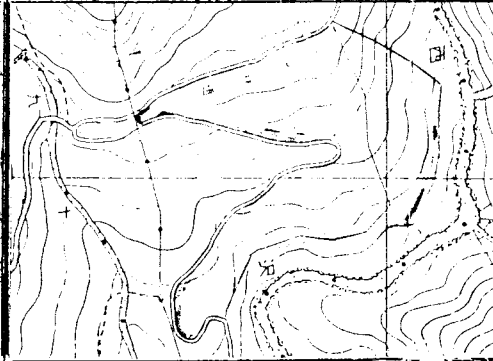


表-2 夏山での取組み概要

| 185 林班 (人工林・皆伐) | 21 林班 (人工林・皆伐) |
|--|--|
|  |  |
| <p>◎・実行期間- 昭和58年12月～昭和59年3月</p> <p>◎・数 量 --- 1000m^3 (内トラクター400m^3)</p> <p>◎・平均斜度 --- 13度</p> <p>◎・作業形態 -- 全幹伐倒(トラクタ) リモコン・手工具 全木伐倒(集材機) リモコン・手工具 造 材-固定玉切装置(協三)集材機のみ トラクター全幹山元巻立</p> | <p>◎・実行期間-昭和58年12月～昭和59年4月</p> <p>◎・数 量 --- 750m^3 (トラクター全量)</p> <p>◎・平均斜度 --- 11度</p> <p>◎・作業形態 -- 全幹伐倒(トラクター) リモコン 手工具 造 材-- 全幹山元巻立</p> |
| <h2>まとめ</h2> | |
| <p style="text-align: center;">利 点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 副作業が大巾に軽減される。 2. 内角作業がなく、安全性が向上した。 3. 全幹材山元巻立等、山元生産拡大が図れた。 4. ワイヤロープ等 器具機材の節約で、経費が節減できた。 5. ウインチロープの使用距離を長くしたため、新植更新上の問題点も解消できた。 | <p style="text-align: center;">問 題 点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 材についた泥等により、ソーチェーンの摩耗が早く切断能力が落ちた。 2. トラクター幹線道のための走行としたので、荷かけ手のウインチロープ引き廻し作業が多くなった。 |